

4

夜の生活活動を支える 都市と交通のあり方に関する研究

宇都宮大学地域デザイン科学部教授
大森 宣暁

本研究は、人口減少・少子高齢社会において、全ての人々が安全・安心・快適に、夜間の自宅内外の生活活動に参加できる環境整備に向けて、我が国の社会的文化的特性を反映した都市と交通のあり方について、幅広い視点から検討を行うことを目的とする。本稿では、「北関東3都市への出張者の自由時間における活動・消費行動の特性」および「首都圏および地方都市にキャンパスを有する大学生の余暇活動と生活の質」に関する調査・分析結果を報告する。

自主研究「夜の生活活動を支える都市と交通のあり方に関する研究」(日交研シリーズ A-698)

1. はじめに

24時間化した現代の都市においては、人々の生活の質を向上させる視点から、「住む」、「働く」、「憩う」、「往来する」という都市社会の4要素を、時間軸を考慮してバランスよく配置することが求められるものと考えられる。しかし、従来の都市・交通計画は、昼間の都市活動を主たる計画対象とし、夜間の都市活動が幾分疎かにされてきた感が否めず、人々が、安全・安心・快適に、夜間の活動に参加できる環境が整備されているとは言い難い。本研究は、人口減少・少子高齢社会において、全ての人々が安全・安心・快適に、夜間の自宅内外の生活活動に参加できる環境整備に向けて、我が国の社会的文化的特性を反映した都市と交通のあり方について、幅広い視点から検討を行うことを目的とする。

2. 出張者の活動・消費行動の特性^[1]

本研究は、関東1都6県から北関東3県の県庁所在地である宇都宮市、前橋市、水戸市への出張者を対象として、独自のアンケート調査(表1)を実施し、大都市近郊地方都市への出張者の自由時間における活動・消費行動の特性を明らかにした。一連の分析により以下の結論が得られた。

・出張者は、日帰りの場合は宿泊に比べて「飲酒を伴う飲食」を行った人の割合が低く、「飲酒を伴わない飲食」を行った人や「特に何もしなかった人」の割合が高い(表2)。出張先到着日に業務がある場合、日帰りよりも宿泊の方が、夜遅い時刻まで活動を行っている人の割合が高い(図1)。

・魅力的な飲食店や飲み屋街および観光スポットを増やすこと、出張時の自由時間が増加することで、出張者の業務以外の自由時間における活動内容に対する満足度が向上する可能性がある。また、前橋市は、宇都宮市、水戸市と比較して、施設の営業時間や公共交通のサービス時間の延長により、満足度向上の可能性が高い。

・日帰り出張の場合に、自営業や公務員、個人年収1,000万円以上の出張者は、出張先での自由時間における消費金額が高い(表3)。また、自由時間に特定の活動を行った場合に消費金額は高く、特に「飲酒を伴う飲食」を行った場合、また帰社/帰宅時に出張先を出発する時刻が

表1 北関東3都市への出張者に対するアンケート調査概要

調査期間	2016年11月29日(火)~12月5日(月)
調査対象者	楽天リサーチ株式会社社のモニターで以下の条件を満たす個人: ・関東1都6県(東京都, 千葉県, 埼玉県, 神奈川県, 茨城県, 栃木県, 群馬県)居住者 ・過去一年間に宇都宮市, 水戸市, 前橋市に出張経験があり, 過去一年間に転勤・転職していない就業者 ・年齢は20~69歳
調査方法	インターネット調査
調査項目	・一番最近の日帰り/宿泊出張時の活動・消費行動および意識: 交通手段, 所要時間, 出張先への到着時刻, 業務開始・終了時刻, 出張先での活動終了時刻, 自由時間に行った活動内容・場所, 消費金額, 自由時間に行った活動に対する満足度および満足度向上に寄与する要因など ・過去一年間の日帰り/宿泊出張: 年間来訪回数, 平均消費金額など

表2 日帰り/宿泊別の自由時間における活動内容

自由に使える時間における活動内容	サンプル数		p値
	日帰り (n=632)	宿泊 (n=132)	
(i)飲酒を伴う飲食	78 (12%)	60 (45%)	0.00 ***
(ii)飲酒を伴わない飲食	230 (36%)	22 (17%)	0.00 ***
(iii)飲食以外の活動	33 (5%)	8 (6%)	0.70
(i)&(ii)	6 (1%)	4 (3%)	0.06 *
(ii)&(iii)	47 (7%)	2 (2%)	0.01 **
(i)&(iii)	17 (3%)	13 (10%)	0.00 ***
(i)&(ii)&(iii)	6 (1%)	2 (2%)	0.56
(iv)特に何もしなかった	215 (34%)	21 (16%)	0.00 ***

***:p<0.01 **:p<0.05 *:p<0.1

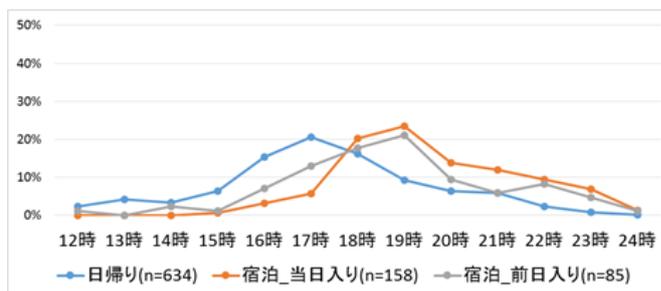


図1 日帰り/宿泊別の活動終了時刻分布

表3 出張者の消費金額モデル (Tobit モデル)

説明変数	日帰り								宿泊	
	全体		宇都宮市		前橋市		水戸市		全体	
	係数	t値								
定数項	-3672.46	-7.55 ***	-3086.91	-4.50 ***	-6172.38	-5.84 ***	-1618.15	-2.42 **	4753.44	1.93 *
公務員	1625.30	1.88 *	940.70	0.64	2509.26	1.47	596.23	0.51	1368.81	0.35
自営業	2129.94	2.31 **	4661.96	3.01 ***	-22.12	-0.01	2232.96	1.74 *	2635.40	0.82
個人年収1000万以上	2199.20	4.04 ***	799.83	1.07	3857.28	3.10 ***	2042.12	2.71 ***	1464.78	0.69
飲酒を伴う飲食	6866.88	10.56 ***	4803.07	5.98 ***	8916.71	5.97 ***	8204.47	7.82 ***	3545.53	1.41
飲酒を伴わない飲食	3971.76	7.67 ***	3600.85	5.13 ***	6082.87	5.62 ***	2325.63	3.06 ***	2209.40	0.87
飲食以外の活動	3998.43	3.94 ***	2836.32	1.68 *	7093.93	3.42 ***	2647.61	1.94 *	-1567.20	-0.34
複数人	809.24	1.81 *	1047.40	1.78 *	2023.05	2.14 **	-493.25	-0.74	2808.18	1.57
帰りに出発した時刻19時-27時	1094.48	6.78 ***	908.28	3.68 ***	1899.59	5.24 ***	659.08	3.07 ***	979.38	1.95 *
σ	5093.42	29.71 ***	3926.88	17.10 ***	6134.91	17.08 ***	4243.85	17.26 ***	11102.80	18.96 ***
L(C)	-4804.43		-1588.50		-1602.49		-1592.93		-1953.79	
L(β)	-4688.17		-1549.87		-1551.80		-1543.99		-1946.75	
カイ二乗値(=-2(L(C)-L(β)))	232.53		77.27		101.39		97.88		14.09	
観測数	630		219		212		199		185	

***:p<0.01 **:p<0.05 *:p<0.1

表4 大学生に対するアンケート調査概要

調査期間	2016年12月~2017年1月
調査対象者	大学在学中の学部3年生~修士2年生： ・計15大学(17キャンパス)の1,348人 ・東京23区内：専修大学、東洋大学、日本大学(駿河台)、早稲田大学 ・東京23区外、千葉、埼玉、神奈川：首都大学東京、東京理科大学(野田)、日本大学(船橋)、文教大学、流通経済大学(新松戸) ・その他地方都市：茨城大学、宇都宮大学、宇都宮共和大学、筑波大学、広島大学、福島大学、山梨大学、流通経済大学(龍ヶ崎)
調査方法	直接配布・回収
調査項目	・個人属性：性別、学年、居住地、世帯構成、自動車利用可能性、サークル・部活動実態、アルバイト実態、宅内外志向、通学交通手段・所要時間、勉強時間、スマホ・PCの使用時間、自由に使えるお金、交際相手の有無 ・余暇活動に対する意識：酒の場が好きか、活動頻度の増減意向・制約・重視すること、施設数の満足度、活動満足度 ・余暇活動実態：活動の頻度・場所・交通手段と所要時間、一緒に行う相手・友人数、消費金額、よく行う活動内容 ・主観的幸福感(0~10点)

19時以降、遅くなるほど消費金額が高くなる(表3)。

・関東1都6県在住者で宇都宮市への来訪者を対象とした場合に、出張者の消費金額が観光・私事目的来訪者の消費金額に占める割合は、日帰りで61%、宿泊で50%であり、観光目的のみならず出張者の消費が地域経済に与える影響は相当のものである。

3. 大学生の余暇活動と幸福感^[2]

本研究は、学生の生活の質を捉える指標としての主観的幸福感に影響を与える要因の一つと考えられる、余暇活動の実態と意識を明らかにする。具体的には、首都圏および地方都市の計15大学(17キャンパス)を対象としたアンケート調査(表4)を行い、学生の余暇活動を、飲酒活動、趣味・娯楽活動の2つに分類して、実態と意識を明らかにした。一連の分析により以下の結論が得られた。

・都心寄りのキャンパスに通学する学生は、地方の大学に通学する学生と比較して、どちらかといえば余暇活動費を稼ぐためにアルバイトを行っており、一ヶ月に自由

表5 大学生の主観的幸福感モデル (Tobit モデル)

説明変数	主観的幸福感	
	係数	t値
定数項	-0.901	2.80 ***
学年(1:学部生)	-0.420	-2.05 **
東京23区内	0.347	1.77 *
地方都市	0.072	0.45
交際相手(1:いる)	0.685	4.73 ***
アルバイトの意識(1:どちらかといえば余暇活動費を稼ぐため)	0.243	1.57
サークル・部活動(1:所属している)	0.386	2.68 ***
飲酒頻度(日/週)	0.093	-1.67 *
趣味・娯楽頻度(日/週)	0.096	1.95 ***
σ	2.160	40.9 ***
L(C)	-2086.20	
L(β)	-2052.32	
カイ二乗値(=-2(L(C)-L(β)))	67.8	
観測数	978	

***:p<0.01 **:p<0.05 *:p<0.1

に使えるお金が多い。

・大学キャンパスが都心寄りほど、飲酒活動の頻度は高く、活動を行う施設数に対する満足度、一ヶ月に消費する金額、余暇活動に対する満足度、主観的幸福感が高い。
 ・学部生よりも修士の学生、東京23区内の大学生、交際相手がいる、どちらかといえば余暇活動費を稼ぐためにアルバイトを行っている、サークルに所属している、飲酒活動の頻度が高い、趣味・娯楽活動の頻度が高い学生は、主観的幸福感が高い(表5)。

参考文献

- [1]近藤雄太、大森宣暁、長田哲平(2017)「出張者の自由時間における活動・消費行動の特性—北関東3都市への出張をケーススタディとして—」『都市計画論文集』52-3(印刷中)
- [2]菅野健、大森宣暁、長田哲平(2017)「大学生の余暇活動と生活の質に関する研究」『土木計画学研究・講演集』56(印刷中)